

令和4年度ムロアジ類の管理基準値等に関する研究機関会議  
議事要録

日時：令和4年7月26日（火）

水産資源研究所長崎庁舎大会議室および teams を用いた会議

概要：

マルアジ日本海西・東シナ海系群およびムロアジ類（東シナ海）について、水産研究・教育機構（機構）が作成した研究機関会議報告書案の管理基準値案および漁獲管理規則の部分を中心に説明し、議論を行った。マルアジとムロアジ類を一緒にして資源管理をしたほうが良いのではないかという意見があり、その件については今後の会議などでそのことも含めて説明をすることとなった。また、漁業者の不信感を軽減するため新2系ルールで資源管理をする際の課題と利点について丁寧な記述と説明が必要との意見があり、後日メール会議にて承認を取ることもとなった。さらにムロアジ類の提案書に追記してほしいとの意見があり、これも後日メール会議にて承認を取ることもとなった。以上のことから、後日メール会議にて承認されたものも含め、報告書案は承認された。

発言内容

マルアジ日本海西・東シナ海系群

**清田：**利用できる資源情報は限られているが、MSE（管理戦略評価）によって確認されている管理方策なので特にコメントはない。ただし、CPUEが非常に重要な情報であることを再認識した。

**大下：**資源量指標値（CPUE）の改善は今後も進めていきたい。

**長崎県（高木）：**管理がどのように進むのかは不明だが、マルアジとムロアジ類を一緒に管理するとした場合の目標値はどう算出されるのか？

**大下：**サバ類と類似した状態。農林統計はサバ類、評価はマサバとゴマサバと分けて行い、ABCは合算している。マルアジとムロアジ類を合わせた結果は、ムロアジ類の時に説明するため、その際に議論していただきたい。

**福岡県（長本）：**ブリの資源評価手法検討部会で、参考人から「不確実性を言わないために漁業者の不信感につながるの発言があった。2系資源1系資源と違っては漁獲量がABCに関係することや資源尾数が分からないこと、将来予測ができないこと、神戸プロットが描けないことが課題としてあげられ、メリットとして少ない情報でABCが算出できる。漁業者の不信感を軽減するため、丁寧な記述や説明が必要なので、これらの課題等を資料に加えた

らどうか。

**大下**：今後の検討事項に文言を追加し、メールベースで意見を聞くという方針で進めたい

**福岡県（長本）**：他魚種と同様に議事録の作成をお願いしたい。できれば問答がわかる形でお願いしたい。

**大下**：発言の要約にさせていただきたいが、公開する前に参加者に承認を図るよう勧める。

ムロアジ類（東シナ海）

**清田**：手順は適切に行われている。会議の範疇を超えるかもしれないが、もともと水揚げはまとまっている状況で、マルアジとムロアジ類を分けて評価してABCを算出した場合、どのように管理が進められるのか情報があれば教えてほしい。

**大下**：研究機関会議資料は合意できれば公開される。分けた場合と一緒にした場合で仮定が異なるため、ABCに違いが生じる。漁業現場の混乱も含めて、TAC管理についてはステークホルダー会議のなかで合意すると思う。管理の在り方については漁業者と水産庁を交えた会議で決められる。個人的には分けた方が良いと思うが、本会議においてさまざまなお意見をいただきたい。

**清田**：管理がどうなるかはさておき、ベストアベイラブルな情報に基づき、資源状態を出来るだけ分けて把握していくという姿勢については賛同する。

**長崎県（高木）**：管理と評価は別という話だが、魚種を一体化して考えるべきだと個人的には考える。例えば、個々に評価した場合に、まとめて管理するとなってしまった場合、ABCを足すのが一般的なのか？

**大下**：特に決まりはない。資源評価でもまとめたCPUEを出しているもので、それを使うことがあるかもしれない。マルアジについては管理することで増やせる伸びしろがあるので、別々に管理していく方が良いかと思う。

**長崎県（高木）**：現場では両者を分けられないため、どう分けて管理するのか。評価としては別々に取り扱うことは理解できるが、現場での管理は難しいだろう。

**大下**：科学機関としては、詳細に分けた方がよいという意見である。

**長崎県（北原）**：資源量水準の割合（80%、56%）の数値の算出方法（過程）について詳しく説明してほしい。現場の人に、数字の根拠を理解してもらうのは難しいのではないか。

**黒田**：MSEで求めたというのが端的な回答。色々な数字の組みあわせで試して、管理の良し悪しで判断した。その根拠は引用文献にある。目標に近いところは緩やかに、遠いところは急激に下げる必要がある、という定性的な傾向がある。

**大下**：今回、新2系に関する資料が準備できなくて申し訳なかった。漁業者への説明時にはスライドを用意して説明する。今後は丁寧に準備をして説明したい。

令和4年度マルアジ・ムロアジ類の管理基準値に関する提案書（案）について

**鹿児島県（梶島）：**ムロアジ類について、「ムロアジ類については5魚種が混在しているという状況にあり、更なる基礎的知見の蓄積が必要である」という文言を追加してほしい。TAC管理を進めるにあたり、魚種別の管理をすべきという認識を持っている。現状は基礎的知見が不足している。

**大下：**文言を追加し、メールで承認を取りたい。

**長崎県（高木）：**資源管理目標値の80%、56%水準は算定規則に書かれているのか？提案書は他種でも出されているのか？

**大下：**その通りである。

**長崎県（高木）：**今回、提案書を出した理由は何か？

**大下：**一目で分かりやすいようにそうしている。